

## 平成25年度事業報告書

財団創設者 安藤百福の「食とスポーツは健康を支える両輪である」という理念のもと、子どもたちの心身の健全な育成と、食文化の発展に貢献する公益事業を実施しました。

その概要につきまして、以下のとおりご報告いたします。

### <公益目的事業>

- (1) 公1. 陸上競技支援事業
- (2) 公2. 自然体験活動支援事業
- (3) 公3. 食文化振興事業
- (4) 公4. 発明記念館運営事業
- (5) 共通. 青少年の健全育成を目的とする支援事業

### <収益事業等>

- (1) 収1. 施設賃貸および物販等の業務受託

### <公益目的事業>

#### ■公1. 陸上競技支援事業

「未来ある子どもたちにあらゆるスポーツの基本である正しい走法を学ばせたい」という日本陸上競技連盟の考えに賛同し、走る楽しさ、仲間とふれあう喜びを広めることを目的に、全国の小学生を対象とする陸上競技大会を支援しています。

#### 1. 小学生陸上競技大会等の後援事業

##### (1) 第29回全国小学生陸上競技交流大会の事業後援

子どもたちにあらゆるスポーツの基本である正しい走法を学ばせること、スポーツを通じた友情を育んでもらうことを目的に、全国の小学5年、6年生を対象とする陸上競技大会の都道府県代表を決定する予選大会と、決勝大会を後援しました。

昭和60年に「第1回全国少年少女リレー競走大会」としてスタートした本大会は、毎年16万人を超える選手、指導者が参加しています。過去の本大会出場者の中から、末續慎吾選手（第8回大会出場）、高平慎士選手（第12回大会出場）が、平成20年北京オリンピック男子4×100mリレーで銅メダルを獲得するなど、国際舞台で活躍する選手を多く輩出しています。

また、平成24年のロンドンオリンピックでは、陸上競技日本代表選手46名の内、11名が小学生時代に本大会に出場し、本大会は、いまや子どもたちにとって目標となる大会として定着し、日本陸上競技界の底辺の拡大に貢献しています。

【主催・後援】 主催：公益財団法人日本陸上競技連盟 後援：文部科学省他

【実施日】 ① 予選大会 平成25年6月～7月  
② 決勝大会 平成25年8月23日（金）～24日（土）

【場 所】 ① 予選大会 全国47都道府県の競技場  
② 決勝大会 横浜・日産スタジアム

【参加者数】 約165,000人（選手、指導者、関係者）

【内 容】 47都道府県の予選大会において、選手に入賞メダルや参加賞を贈呈。  
決勝大会では、陸上競技の「走・跳・投」の3要素である100m走、80m

ハードル走、走幅跳、走高跳、ソフトボール投げ、4×100m リレーなどが実施され、その模様はNHK 教育（Eテレ）にて全国録画放送されました。

【事業費】 102,741,514 円

(2) 第 16 回全国小学生クロスカントリーリレー研修大会の事業後援

全国の小学 5 年、6 年生を対象とし、47 都道府県の代表チームと、開催地大阪から推薦された 3 チームを加えた計 50 チームが参加するクロスカントリー大会と、前日に開催された研修会を後援しました。

本大会は、発育途上の子どもたちが、身体に負担をかけない正しい長距離走を理解し、走法、呼吸法やトレーニング方法などを学ぶことを目的に、平成 10 年度からスタートしました。

本大会の第 1 回大会出場者の佐藤悠基選手が長距離の代表として、平成 24 年開催のロンドンオリンピックに出場しました。

【主催・後援】 主催：公益財団法人日本陸上競技連盟 後援：文部科学省他

【実施日】 平成 25 年 12 月 7 日（土）～ 8 日（日）

【場所】 池田市民文化会館、万博記念公園内特設コース（大阪府吹田市）

【参加者数】 852 人（一般タイムトライアル参加者も含む）

【内容】 ① 池田市民文化会館において開講式、研修会を開催

講師：公益財団法人日本陸上競技連盟 普及委員

井筒 紫乃 氏、大畑 好美 氏

ゲスト：日清食品グループ陸上競技部

白水 昭興 監督

実井 謙二郎 コーチ

（平成 8 年 アトランタオリンピック 男子マラソン代表）

諏訪 利成 コーチ 兼 選手

（平成 16 年 アテネオリンピック 男子マラソン代表）

研修内容：・小学生の練習によるからだへの負担について

・ジュニアアスリートの食事の基本について

・さまざまな運動をすることの大切さについて

② 万博記念公園特設コースにおいて本大会を開催

クロスカントリーリレー（1 区間 1.5km×6 区間 男女交互のリレー）

友好タイムトライアル、一般参加タイムトライアル

【事業費】 18,124,296 円

(3) 全国小学生陸上競技交流大会優秀選手研修会の実施

将来の有望選手としての意識・意欲づけと、その指導者に発育発達に応じた一貫指導の重要性を理解してもらうため、第 29 回全国小学生陸上競技交流大会で優秀な成績をおさめた選手を対象に研修会を実施しました。

【実施日】 平成 25 年 10 月 26 日（土）～ 27 日（日）

【場所】 横浜・日産スタジアム、横浜市スポーツ医科学センター 他

【参加者数】 選手・指導者 計 30 名

【ゲスト講師】 飯塚 翔太 選手（第 19 回大会出場）、山縣 亮太 選手（第 19、20 回出場）

【事業費】 第 29 回全国小学生陸上競技大会事業費に含む

## 2. 少年少女陸上競技指導者表彰「安藤百福記念章」贈呈

子どもたちの心身の健全な育成には優れた指導者の存在が不可欠であるとの考えから、小学生の指導者を顕彰する少年少女陸上競技指導者表彰「安藤百福記念章」を、47都道府県から選出された指導者47名に贈呈し、今後の一層の活躍を期待して表彰しました。

【実施日】 平成25年8月24日（土）

【事業費】 第29回全国小学生陸上競技大会事業費に含む

## 3. スポーツ全般におけるジュニアアスリート育成の後援事業

本事業は、当財団の新たな取り組みとして、公益財団法人日本オリンピック委員会に加盟する各競技団体を対象とし、全国的な組織またはそれに準ずる団体の活動を通じて、ジュニアアスリート育成を支援し、もって青少年の心身の健全な育成を図りたいという趣旨で行います。

平成25年度は、公益財団法人日本テニス協会が主催する男子ジュニア育成プログラムに後援しました。国内開催の国際大会を含む、全国大会、全国大会予選を含む地方大会から成績優秀者を選抜して行うトップジュニアキャンプ、ナショナルジュニアキャンプ、海外遠征等を支援し、子どもたちが夢を実現する活動を応援します。

【参加者数】・トップジュニアキャンプ 選手・指導者 97名（年代別に計4回開催）

・ナショナルジュニアキャンプ 選手・指導者 91名（年11回開催）

・海外遠征 選手・指導者 40名（全米OPENジュニア大会を含む11大会）

【事業費】 15,750,000円

## ■公2. 自然体験活動支援事業

「自然とのふれあいが子どもたちの創造力を豊かにする」という創設者 安藤百福の考えのもと、財団設立以来、青少年の心身の健全な育成を目的に、子どもたちの「自活力」を育む自然体験活動の更なる普及と活性化に取り組んできました。

また、平成22年5月、長野県小諸市にわが国初の自然体験活動指導者養成専門施設「安藤百福記念 自然体験活動指導者養成センター（略称：安藤百福センター）」を設立し、子どもたちを身近な自然に案内する指導者を育てる「上級指導者」の養成と指導カリキュラムの研究・開発を行っています。

### 1. 自然体験活動支援事業「第12回トム・ソーヤースクール企画コンテスト」の実施

「トム・ソーヤースクール企画コンテスト」では、自然体験活動の企画案を公募し、ユニークで創造性に富んだ企画を立案した50団体を選考し、実施支援金各10万円を助成しました。

更に、助成した団体から提出された活動報告書を審査し、学校部門には文部科学大臣奨励賞と優秀賞を、一般部門には安藤百福賞と優秀賞を選考し表彰するとともに、各団体のユニークな活動を発表し、他団体の活動の参考としていただくことで、自然体験活動の活性化を図ります。

なお、今回助成した団体の活動には、延べ約27,500人が参加しました。

【後援】 文部科学省、横浜市、横浜市教育委員会、NPO法人自然体験活動推進協議会

【表彰団体】

#### ◆ 学校部門

文部科学大臣奨励賞（副賞：100万円）

団体名：町田市立つくし野小学校 ビオトーププロジェクト（東京都）

企画名：「体験的環境学習活動」

優秀賞（副賞：50万円）

団体名：江戸川区立清新第二小学校（東京都）

企画名：6泊7日セカンドスクール

◆ 一般部門

安藤百福賞（副賞：100万円）

団体名：こども∞（むげん）感ばに一（宮城県）

企画名：自然とともに…Eco キャンプ ～自然の恵みに感謝の心を育み、  
そして命をいただき、生かされている事を知る～

優秀賞（副賞：50万円）

団体名：小川原湖自然楽校（青森県）

企画名：2013 夏冒険キャンプ

◆ 特別賞・奨励賞

● 推奨モデル特別賞（副賞：20万円）

自然体験活動のプランニングや指導方法、計画を実施に移す過程が、多くの学校  
や団体の参考モデルになると認められた企画に贈呈。

団体名：（独）国立青少年教育振興機構 国立沖縄青少年交流の家（沖縄県）

企画名：無人島アドベンチャーキャンプ 2013

～みんなとちがう夏・冒険しようぜ！～

● トム・ソーヤー奨励賞

優秀賞に及ばないものの、更なる発展が期待できる企画に贈呈。

① 団体名：とっぷ子どもゆめクラブ（北海道）

企画名：とっぷ子どもゆめクラブ活動

② 団体名：明石市立大観小学校（兵庫県）

企画名：大観野鳥レンジャー出動！～守ろう！ぼくたち、わたしたちの  
水辺環境。鳥となかよし、大観のまち～

③ 団体名：自然と文化の森協会 猪名川キッズクラブ（兵庫県）

企画名：子どもも、まちの主人公

～都会の中にオアシスのように残る自然を楽しもう～

④ 団体名：たつの市立新宮小学校4年生（兵庫県）

企画名：集まれ！しんぐう自然大好キッズ

【表彰式】開催日：平成26年1月25日（土） 安藤百福発明記念館 5階ホール

来賓：久保公人氏（文部科学省 スポーツ・青少年局長）

鯉渕信也氏（横浜市 こども青少年局長）

講演会：三浦雄一郎氏（冒険家・プロスキーヤー）

テーマ「私の冒険人生～体験を通じて得たもの～」

【事業費】14,618,685円

## 2. 自然体験活動指導者養成事業

安藤百福センターを拠点に、自然体験活動の指導者を育てる「上級指導者」養成をはじめ、自然体験活動の底辺の拡大と更なる活性化を図る中心的な役割を果たしています。

【事業内容】

① 自然体験活動における上級指導者養成事業

- ② 自然体験活動及びアウトドア全般に係わる専門家等の養成・講習事業
- ③ 大学、大学院、専門学校等の自然・野外・観光・農業に係わる講義演習
- ④ 自然体験活動に係わる企業研修をはじめとする各種研修事業
- ⑤ 指導カリキュラムの研究・開発、紀要の発刊

【平成 25 年度 主な事業】

① 上級指導者養成のための研修会の共催

NPO 法人自然体験活動推進協議会や公益社団法人日本環境教育フォーラム、公益社団法人日本山岳ガイド協会、国立青少年教育振興機構などが養成、認定する指導者研修を支援しました。

平成 25 年度は、新たに 104 名が上級指導者に認定されました。

② 第 3 回浅間大学院生セミナーの主催

開催日 : 平成 25 年 5 月 31 日 (金) ~6 月 2 日 (日)

参加者 : 学生 20 名、教員 6 名 計 26 名

内容 : 幅広い自然教育や環境教育の専門家を目指す学生たちの交流や、各大学の講義内容を情報交換することで、相互に研鑽、発展を図ることを目的に、各大学教員による講義、大学院生による研究発表、野外体験活動などを実施しました。

また、米国ワイオミング州の自然学校「ティートン サイエンススクール」に、最優秀大学院生 2 名を派遣することを決定しました。

文系、理系問わず幅広い研究者が集まり、議論を行う意義が再確認され、本セミナー参加者が日本の未来の環境分野をリードしていくことを期待しています。

③ 環境思想シンポジウムの主催

開催日 : 第 3 回 平成 25 年 4 月 2 日 (火) 参加者 : 35 名

第 4 回 平成 26 年 3 月 18 日 (火) 参加者 : 54 名

内容 : 日本の自然体験や野外活動のプログラムには、欧米からの輸入プログラムが多く採用されます。しかし、欧米のプログラムには、それぞれのバックボーンに欧米の思想が反映されています。そのため、日本の東洋的な環境思想との溝を埋める作業が必要となります。

現在、地球環境問題が複雑に絡み合っ解決の道が見えない中、環境思想を多角的に研究することが必要であり、有識者による講演と参加型のディスカッションを行い、環境思想について議論を深めました。

【事業費】 121,321,381 円

3. ロングトレイルの普及、振興

子どもたちの自然体験の主な活動場所は、山、川、海や身近な森林やキャンプ場が中心であり、どのフィールドでも「歩く」ことが基本となります。当財団は、独自に 4 コース (全長 22.8km) の安藤百福センタートレイルを運営、管理するとともに、日本ロングトレイル協議会と連携し、自然とのふれあう機会を創造するため、ロングトレイルの普及、振興を図りました。

◆「第 1 回ロングトレイルシンポジウム」の共催

開催日 : 平成 25 年 11 月 23 日 (土)

参加者 : 125 名

後 援 : 観光庁、長野県、長野県教育委員会、小諸市 他  
来 賓 : 長野県知事 阿部 守一 氏  
講 演 : 「フットパスに見る英国ウォーキング事情」  
筑波大学 名誉教授 市村 操一 氏  
報 告 : 「ロングトレイルに期待するもの」  
観光庁スポーツ観光推進室長 八木 和広 氏  
内 容 : アウトドアズと自然体験活動の普及・振興を教育と産業、さらには地  
域観光の活性化という視点と、産官学の連携を視野に、ロングトレイ  
ルの今後の発展、課題について議論しました。

【事業費】 2. 自然体験指導者養成事業に含む

#### 4. 小諸ツリーハウス プロジェクトの推進

安藤百福センターの森では、自然に興味のない人でも、「アート」をフックにして、豊かな自然にふれあってもらおうと、著名なデザイナーや建築家らのデザインした既存の枠にとらわれな  
いツリーハウスを展示し、自然体験活動の更なる普及と拡大を図りました。

平成 25 年度は、新たに 3 棟が竣工し、現在 5 棟のツリーハウスが森の中に溶け込んでいます。

【事業費】 2. 自然体験指導者養成事業に含む

#### 5. 自然体験活動支援ホームページ「自然体験.com」の運営

自然体験活動に関する情報や専門家によるノウハウを満載しているホームページ「自然体  
験.com」は、学校完全週 5 日制が施行された平成 14 年にスタートしました。当財団では、「自然  
体験.com」を通じて、保護者や指導に携わる方々へ自然体験に関する情報を提供し、子どもたち  
の「創造力」や「自活力」を育む自然体験活動の輪を広げる事業を行います。

また、「トム・ソーヤースクール企画コンテスト」の募集や、支援団体の活動状況を伝える速報  
レポート、活動報告書も掲載しています。

【U R L】 <http://www.shizen-taiken.com>

【事業費】 7,946,100 円

### ■公 3. 食文化振興事業

#### 1. 食創会「第 18 回安藤百福賞」表彰事業の主催

「食創会」は、平成 8 年、「食創為世（食を創り世のためにつくす）」という財団創設者 安藤  
百福の理念に基づき、食品の基礎科学の研究奨励ならびに独創的・革新的な食品の生産加工技術  
の開発に対する支援・普及を通じて、世界の食文化の向上・発展に寄与することを目的に創設され  
ました。

当財団が主宰する食創会「安藤百福賞」は、新しい食品の創造開発に貢献する研究者、開発者  
ならびにベンチャー起業家に贈られるものです。大賞や優秀賞のほか、平成 18 年度に新設され  
た発明発見奨励賞は、大学等に所属する若手研究者や中小企業の開発者を表彰対象としています。

【後 援】 文部科学省

【表 彰 者】

◆ 大賞（副賞：1,000 万円）

● 小野 武年 氏（富山大学大学院医学薬学研究部 特任教授）

「食べ物の好き嫌いの学習・記憶と感覚認知の神経機構に関する研究」

◆ 優秀賞（副賞：各 200 万円）

- 藤村 亮太郎 氏（キューピー株式会社 研究開発本部 技術研究所  
野菜・加工プロセス研究部 チームリーダー）

「安全性とおいしさに優れたカット野菜のオゾン微細化バブル洗浄技術の開発」

- 水道 裕久 氏（サンスター株式会社 新規素材活用事業開発プロジェクト  
プロジェクトリーダー）

牧野 武利 氏（サンスター株式会社 研究担当役員）

「ブロッコリー・キャベツのコレステロール低下作用に着目した特定保健用食品  
『緑でサラナ』の開発」

◆ 発明発見奨励賞（副賞：各 100 万円）

- 都築 毅 氏（東北大学大学院農学研究科 准教授）

「日本食の健康有益性評価に関する研究」

【表彰式・記念講演会】

開 催 日：平成 26 年 3 月 7 日（金） ホテルニューオータニ（東京）

来 賓：林 芳正 氏（農林水産大臣）

石破 茂 氏（自由民主党 幹事長）

記念講演会：

<基調講演> 『食』の多様な価値を判断する脳の仕組み」

伊藤 正男 氏（(独) 理化学研究所 脳科学総合研究センター 特別顧問、  
食創会会長）

<特別講演> 「日本食の健康有益性評価に関する研究」

都築 毅 氏（東北大学大学院農学研究科 准教授）

<受賞講演> 「食べ物の好き嫌いの学習・記憶と感覚認知の神経機構に関する研究」

小野 武年 氏（富山大学大学院医学薬学研究部 特任教授）

【事業費】 30,534,111 円

## ■公 4. 発明記念館運営事業

「人間にとって一番大事なものは創造力であり、発明・発見こそが歴史を動かす」という財団創設者安藤百福の考えに基づき、世界の食文化を変えたインスタントラーメンの誕生から、産業として世界に発展していった歴史を通じて、未来を担う子どもたちに発明・発見の大切さを伝え、「ベンチャーマインド」や「創造的思考＝“クリエイティブ シンキング”」を育み、もって青少年の心身の健全な育成に寄与しています。

### 1. インスタントラーメン発明記念館（以下「池田記念館」）の運営

池田記念館は、平成 11 年 11 月にインスタントラーメン発祥の地・大阪府池田市に開館しました。平成 16 年 11 月には、展示内容と体験工房を充実させる拡張新築を行なっています。

総合学習や修学旅行など学校教育の場として利用され、全国各地より 665 校約 30,900 人の小中学生や高校生が来館し、体験型食育ミュージアムとして高く評価いただいています。

【施設概要】 所在地：大阪府池田市満寿美町 8 番 25 号

敷地面積：4,284 m<sup>2</sup>

延床面積：2,920 m<sup>2</sup>

【来館者数】	平成 25 年度来館者数	703,601 人 (累計来館者数 5,212,477 人)
【体験者数】	チキンラーメンファクトリー	44,314 人
	マイカップヌードルファクトリー	439,188 食
【事業費】	119,880,600 円	

## 2. 安藤百福発明記念館（以下「横浜記念館」）の運営

横浜記念館は、平成 23 年 9 月、横浜市みなとみらいに開館しました。「創造的思考＝“クリエイティブシンキング”」をコンセプトに、安藤百福の言葉や思考、行動の本質を、現代アートの手法で表現し、世界に通じる新しい食文化や産業を生み出す原動力となった安藤百福の自由な発想、創造的な考え方を体験、体感できるミュージアムです。

発明・発見の楽しさ、食の大切さ、夢をもって自分で考える楽しさ、あきらめずに何かに取り組む大切さなど、子どもたちに伝えていきます。

昨年度、1,405 校約 59,200 人の学校団体の利用がありました。

【施設概要】 所在地：横浜市中区新港 2 丁目 3 番 4 号

敷地面積：4,000 m<sup>2</sup>

延床面積：9,883 m<sup>2</sup>

【来館者数】 平成 25 年度来館者数 1,021,862 人 (累計来館者数 2,639,273 人)

【体験者数】 チキンラーメンファクトリー 92,846 人

マイカップヌードルファクトリー 787,679 食

カップヌードルパーク 100,124 人

NOODLES BAZAAR ワールド麺ロード 460,340 食

【事業費】 497,089,658 円

## ■共通. 青少年の健全育成を目的とする支援事業

### 1. 「生涯スポーツ・体力づくり全国会議 2014」（主催：文部科学省他）の支援

「次世代に繋ぐ新たなスポーツ環境の創出に向けて～地域におけるスポーツの推進～」をテーマに開催された「生涯スポーツ・体力づくり全国会議 2014－人・スポーツ・未来－」（主催：文部科学省他）に協賛しました。

【開催日】 平成 26 年 2 月 7 日（金）湯田温泉ホテルかめ福 他（山口県）

【協賛金】 500,000 円

## <収益事業等>

### ■施設賃貸および物販の業務受託

当財団が所有する発明記念館（池田記念館、横浜記念館）の一部を、物販コーナーとして賃貸します。また、池田記念館においては、物販業務を受託しています。

なお、本事業による収益の一部は、公益目的事業を行うために充当します。

【賃貸面積】 ① 池田記念館 292 m<sup>2</sup>（館全体の延床面積に占める割合：約 10%）

② 横浜記念館 115 m<sup>2</sup>（館全体の延床面積に占める割合：約 1%）

【事業費】 28,888,286 円

以上